理想の同僚像と体育会系ステレオタイプのギャップについて

1240531 村上小百合

指導教員 小林豊

研究背景

一般に体育会系出身の人材は、人事において好まれる特徴を複数備えているとする定性的な情報が多く存在しているが、体育会系らしい人物像と同僚として望ましい人物像の関係を定量的に明らかにした研究はまだない。

研究目的

本研究は、アンケート調査を通して理想の同僚像と体育会系らしい人物像(=ステレオタイプ)の差異を定量化する。結果を用いて、体育会系出身者が社会人として同僚に受け入れられるか、また体育会系のどのような性質が好ましく/疎ましく思われているかを検証する。

研究方法

2水準8属性の評点ベースコンジョイント分析により、性格(元気/大人しい)、責任感(強い/不足)、チャレンジ精神(旺盛/不足)、時間管理(厳格/無頓着)、上下関係(厳格/無頓着)、飲み会に誘う頻度(多い/少ない)、問題解決方法(忍耐力/思考力)、仕事スタイル(チームプレイ/個人プレイ)の8属性について、「一緒に働きたい度合」と「体育会系らしさ」に対して各水準が貢献する度合いを推定した。また、一緒に働きたい度合と体育会系らしさの評点の間の相関係数を計算した。

分析結果

相関係数は0.239となり、統計的に有意であった。また、責任感-強い、時間管理-几帳面、上下関係-厳格、仕事スタイル-チームプレイが一緒に働きたい度合に有意な正の貢献を示し、飲み会の誘い-多いは有意な負の貢献を示した。体育会系らしさへの貢献度については、性格-元気、責任感-強い、チャレンジ精神-旺盛、時間管理-厳格、上下関係-厳格、飲み会に誘う頻度-多い、問題解決方法-忍耐力、仕事スタイル-チームプレイが全て有意な正の貢献を示した。

考察・結論

一緒に働きたい度合への貢献度と、体育会系らしさへの貢献度で、水準の貢献度の正負が逆転する属性はほとんどなく、相関係数も正であったことから、体育会系は、同僚として好意的に受け取られていることが示唆された。しかし、各属性の重要度は一緒に働きたい度合と体育会系らしさでかなり異なっており、相関係数の値も小さかったことから、理想の同僚像と体育会系ステレオタイプの間ギャップが明らかになった。

高知工科大学 経済・マネジメント学群

2023 年度 卒業論文

理想の同僚像と体育会系ステレオタイプの

ギャップについて

指導教員氏名 小林豊

学籍番号 1240531

氏名 村上小百合